

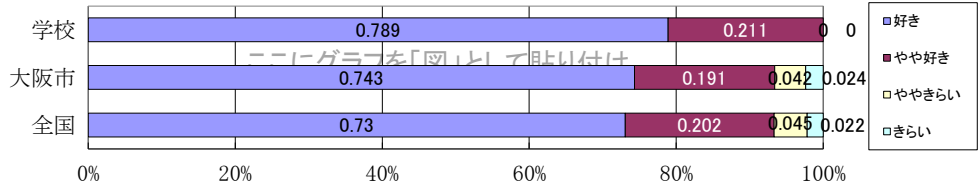
検証テーマ

検証シート: 各校で必要に応じて作成してください

本校の特徴的な結果

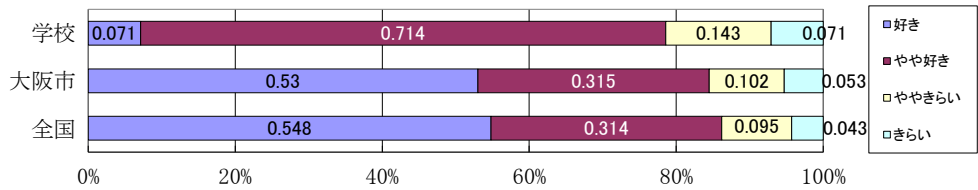
検証項目1

運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



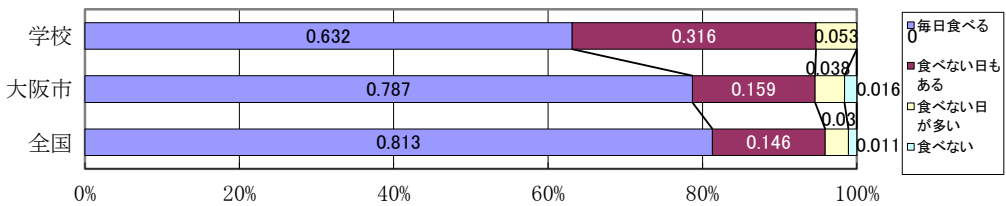
検証項目2

運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



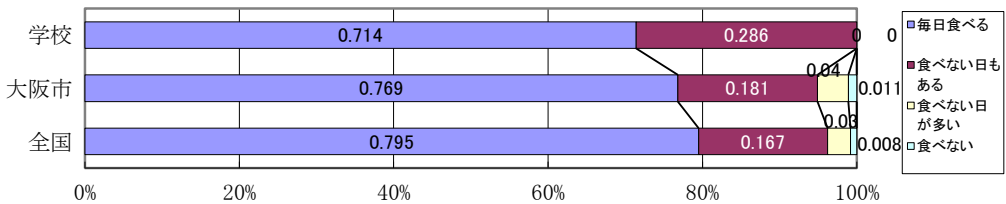
検証項目3

朝食は毎日食べますか。(学校が休みの日もふくめます)



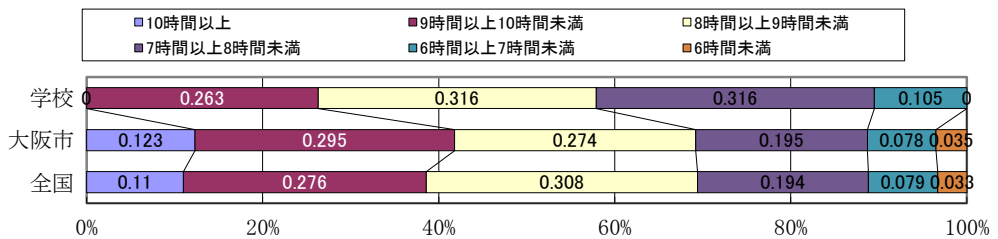
検証項目4

朝食は毎日食べますか。(学校が休みの日もふくめます)



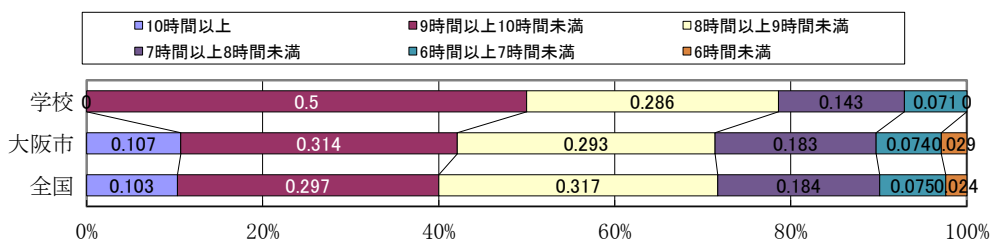
検証項目5

毎日どのくらいねていますか。



検証項目6

毎日どのくらいねていますか。



成果と課題

年間を通じて、学校全体で「北巽モリモリランド」「みんな遊び」などの休み時間に体を動かす取り組みで跳ぶ活動を中心に行ったことで、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問項目について肯定的に回答する児童の割合が男子（100%）は全国（93.2%）を上回ることができた。体育の学習や、休み時間の取り組みが結果にしっかりと反映されている。また、「朝食は毎日食べますか。」の質問項目に対して肯定的な回答の児童は、男子は94.8%（全国95.9%）、女子は100%（全国96.2%）で、女子は全国を上回り、男子も全国とほぼ同等の結果となった。年間を通して、栄養教諭を中心に、食に関する指導や強調週間の取り組みで朝食の大切さについて理解を深める取り組みをしたり、給食便りや食育通信・ホームページなどで給食の献立について紹介するなどして児童及び保護者への啓発を進めたり、また、委員会活動等で簡単な朝食を募集したり、紹介したりして、朝食を食べる意欲を高める活動をしたりした成果といえる。

一方、8時間以上の睡眠時間の確保と早寝早起きの習慣化が課題として挙げられる。校内調査で「学年に応じた決まった時間に寝ている」「朝7時までには起きている」の2項目があり、これらを合わせるとどの学年も8時間以上の睡眠時間の確保が目標となっている。「毎日どのくらいねていますか。」の質問項目に照らし合わせて結果を見ると、女子は78.6%（全国71.7%）で6.9%上回ったが、男子は57.9%（全国69.4%）で11.5%も下回る結果となった。養護教諭・学級担任が中心となり保健指導や元気モリモリ週間を通して、早寝早起きを習慣化することの大切さや良さについて指導してきたが、男子は全国との開きが大きく、まだ児童全体には浸透できていないことが分かった。

今後の取組

毎週の児童朝会で睡眠の大切さや早寝早起きを習慣化することの良さなどを児童にさらに投げかける。また、各学級で定期的に調査し、できているときはPBSシールを配る。これまで同様に養護教諭や学級担任を中心に保健指導や元気モリモリ週間を通して、健康の保持増進の面からも睡眠や早寝早起きがいかに大切であるかについて指導したり、ほけん便り・ホームページなどを通じて保護者への啓発を進めたりして、8時間以上の睡眠時間の確保と早寝早起きの習慣化に向けて児童の意識を高める活動をさらに深めていく。